週間天気予報解説資料　　2019年7月1日10時00分 発表
気象庁予報部

予報期間　7月2日から7月8日まで

1．アンサンブル資料

●アンサンブル(ENS)：中国東北区にスケールの大きな5700m付近のトラフがあり期間のはじめに日本付近を通過する。期間の中頃からおわりかけて5820m付近のトラフが東シナ海から日本付近に進む。地上は、東・西日本付近に前線が停滞し、トラフの通過に伴って南北に振動する。前線に暖かく湿った空気が流入するため、前線の活動が活発となる状態が続く見込み。

●500hPa基本場（週間予報支援図）：実況は、中国東北区付近がトラフで、日本付近はゾーナルからやや西南西の流れ。北日本を除き正偏差。予報期間は、東シナ海付近が弱いトラフで、日本付近はやや西南西の流れ。北日本の一部と沖縄・奄美を除き負偏差。

●４日：5760m付近のトラフが日本海を進む。トラフの接近により、前線は本州付近に北上し、前線上を低気圧が進む。北～西日本にかけて雨の降る所が多い。
●５日：トラフは北日本を通過し、弱いリッジが日本海に進む。また、5820m付近のトラフが東シナ海付近に進む。前線はやや南下して東・西日本の太平洋沿岸付近に停滞する。北～西日本では湿った空気や前線の影響で曇りや雨となる。
●６日：トラフが日本付近に進む。前線は西から再び北上し、高暖湿気が流入するため前線の活動が活発となる。北日本は晴れ間もあるが雲が広がりやすく、東・西日本は雨の降る所が多い。
●７日：トラフは日本海付近に進み、前線は東・西日本付近に停滞する。北～西日本は雨の降る所が多い。
●８日：トラフが日本付近を通過。前線はやや南下するが東・西日本付近に停滞。東～西日本は雨の降る所が多い。北日本は湿った空気が入り易く雲が出やすい。

●沖縄・奄美：高気圧に覆われて晴れる所が多い。

・ アンサンブル(ENS)/27メンバー：４日の前線に伴う降水域について、本州の南岸を主とするメンバーが約4割、本州上とするメンバー約6割。
・ スプレッド： 昨日資料と比べて、６日目が同値、それ以外は拡大。特定高度線は、5700m線は期間の中頃からばらつき始め、期間の終わりは各高度線ともにばらつきが大きくなる。
・ 降水頻度分布：降水高頻度域は、３日の東日本、５日の西日本で拡大（昨日の資料とは逆の傾向）。４日は東・西日本の日本海側で縮小。
・ 予想T850時系列：北日本は期間のはじめ平年並、その後正偏差。東日本は前半正偏差、後半負偏差、西日本と沖縄・奄美は平年並。

2．防災事項等

・ 前線の活動が活発となるため、西日本は期間の中頃まで大雨となるおそれがある。

3．明後日予報（3時40分発表の短期予報解説資料も参照）

・北日本から西日本の500hPaは西南西流場が継続。地上は梅雨前線が西日本から東日本の太平洋側に停滞。
・北海道地方は雲が多いが晴れる所もあり、午後は不安定降水の所がある。東北地方は曇りの所が多い。
・東日本は曇りで雨の降る所がある。
・西日本は曇りで太平洋側や九州北部地方では広い範囲で雨。
・南西諸島は太平洋高気圧の縁辺流の影響で雲が多く、先島諸島では雨の降る所がある。

4．全般週間天気予報（案）

・ 北～西日本は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多い。
・ 沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れる所が多い。
・ 最高気温は、北日本は平年並か平年より高い。東日本～沖縄・奄美は平年並か平年より低い。
・ 最低気温は、北・東日本は平年並か平年より高い。西日本と沖縄・奄美は、平年並か平年より低い日が多い。

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。